

同世代の中での経験を！ ～2学期始業式～



前略
大きな事故もなく、無事また皆さんと、ここに集まることができたこと、大変嬉しく思います。「親や先生、大人がいなくても、学んだことを生かしてしっかりと生活する」という大きな目標は達成できたということですね。こうして、学校に来て、同じ世代の多くの人と関わりをもつという経験は、これから先、そんなにはないかも知れません。

三十七日間の休みを終え、子どもたちが学校に戻ってきました。部活動等で登校していた子も多いと思いますが、中にはずっと学校から離れた子も多いと思います。二学期は行事も多く、最も長い学期となります。子どもたちにとって、実り多き二学期、充実した学校生活となるよう、始業式では次のように話をしました。

知れません。リアルな世界にいる、生身の人間が、どんなことを考え、どんなことに喜びを感じ、どんな言葉に心を動かされて、どんな行動をとるのか。これは、幼い子どもが考えることは、やはり大人が考える。その切り替わりの時期にある本質が見えるように感じます。この三年間に皆さんが実際に経験すること、友だちと想いを共有したり、時には意見がぶつかり喧嘩したり、皆で一つのことを成し遂げたり、そんな経験を積み重ねれば、そこから先の社会の中で、周囲の人の気持ちを感じ、対応するのは難しいことになると思います。また、ゲームの中やネットの中にあるバーチャルな世界では、自分なりのしっかきした考え、見解をもたなければ、考えを誘導されたり、間違えに気づかなかつたりと、足下をすくわれることにもなりかねません。そのためには、実生活での経験が大切となります。二学期は、クラス一丸となって取り組む行事があったりと、全校生で取り組む行事があったりと、たくさん経験が積み重なります。一年生で経験したことは、二学期、三年生では、また違った経験になります。そしてそのような経験を積み重ねて、人として深みが出てきます。二学期は、皆で思う存分活動し、その中で、深みのある人になるために自分自身に磨きをかけましょう。さあ、第二学期のスタートです。楽しい二学期にしましょう。子どもたちにとって、実り多き学期となるよう、教職員一同取り組んで参ります。

本校生徒・教職員に消防協力者として感謝状



中学生の地域貢献
過日起きた水難事故に際し、協力して人命救助を行ったとして本校生徒と教職員に対し、郡山地方広域消防組合、消防長より感謝状が贈呈されました。下校途中で事故を発見した本校生徒は、急ぎ学校へ戻り、教職員に状況を伝え、職員室に居合わせた教職員が現場に向かい、一一九番通報するとともに協力して救助したという事実です。ここで注目すべきは、中学生がその状況下で、自分のできる最善の行動を起こしたことにあります。ややもすれば、救助を焦るあまりに、一人でなんとかしようとする考えられます。しかし、このように、急いでは事を仕損じ、というわけではありませんが、ここで時間と労力を浪費せず、自分ができる最善の行動をとったことが、功を奏したと考えられます。被災地で大事を免れた地域の話を知ると、以前、津波で死んでしまった例のように、中学生が避難する姿を見て、地域住民が無理を始めたなど、誰が流れていきます。今回も、自分の力を過信せず、素直に判断し行動したことは、正にこれまでに学びの成果であると考えられます。地域貢献と聞くと、何か凄いなことを行わなければならないように感じますが、そうではないと私は思います。ボランティアの考え方も似ていますが、自分のできる事を他の人のためにに行う、その地道な繰り返しの周り、地域の人々の助けになつていくものと考えています。これからも、様々な学びを通して、地域の未来を託せる子どもたちの育成を目指し、教育活動を続けて参ります。

晴れの舞台！中体連県大会



七月二十二日～二十四日の三日間、令和六年度中学校体育大会が、県内各地を会場に開催されました。いわゆる中体連の県大会、これは、部活動に励む中学生の誰もが目指す晴れの舞台です。今年度、支部大会、地区大会を勝ち抜いて、小原田中学校から、この舞台に立つことができたのは、女子卓球部です。会場は、須賀川市にある円谷幸吉メモリアルアリーナ。県内各地区から、予選を勝ち抜いた強豪校が集まりました。団体戦で、県中地区二位の小原田中卓球部が対戦したのは、会津地区二位の昭和、相双地区一位の向陽中、県北地区三位の本宮一中です。いざゲームが始まると、一進一退の手に汗握る攻防が繰り広げられ、県大会でもなお、僅差で勝ち、僅差で敗れるゲームばかりとなりました。結果、対戦成績一勝二敗で、惜しくも決勝トーナメントには進めませんでした。これまで積み上げてきた練習の成果を存分に発揮することができたのではないかと思います。予選を勝ち抜いたからこそ見る事ができる県大会の舞台、景色。強豪校との対戦により、肌で感じた圧、空感。その戦いの中で繰り広げられた、自分自身の内面との戦い。これは、代替えできない経験であり、人として大きく成長する機会となります。中体連の大会全体から見れば、県大会は一つの通過点でしかなく、さらに勝ち上がれば東北大会、全国大会があり、むしろそっちが目標だという中学生もいます。しかし、この県大会を経なければその次の大会へは進めません。仮に東北大会で優勝しても、この県大会で結果を出せなければ、全国大会に進めない競技もあります。だからこそ、県大会は中学生にとって晴れの舞台であり、これからの多くの中学生に、目指し、挑戦してほしいところです。

〔教育目標〕

健 自 貴
康 主 任

小原田中だより

令和6年8月号
郡山市立小原田中学校
校長 関根宏房

ホームページURL
<https://koriyama.scho-olweb.ne.jp/0720007>

